

科目	文学				
時間数	1 単位 15 時間	授業方法	講義	授業時期	1 年
講師名	⑤内田泉				
ねらい	優れた文学作品の読解鑑賞を通して、看護を担うにふさわしい人の痛みの分かる豊かな感性や強い意志、高い倫理観を養い、自分の「死生観」(いかに生き死ぬか)を持てるよう考えを深める。 「いのち」を預かる者として真摯に人の死と生に向き合い、その尊厳を守る姿勢を育てる。 他者の思いに耳を傾け、読み取る姿勢を育て、自分の考えや思いを的確に述べ、書く力を養う。				
目標	1 死と生に関する文学作品を読み、自分の体験だけでは知り得ないさまざまな死を前にした人の思いを知り、自身自身の生と死について考える。 2 作品の時代や社会背景、歴史にも関心を持ち、今を生きる自分の課題について考えていく。 3 優れた文学表現に触れ、他者の思いを読み取り汲み取る力を育てるとともに、自分の思い考えを文章あるいは口頭で発表する表現力を養う。クラスメートの意見を読み聞き、また関連作品を読むことで、自分の考えを深める。				
授業計画					
回	内容				
1	ガイダンス<なぜ看護学生が「文学」を学ぶ必要があるのか考え理解する> 日野原重明「私が人生の旅で学んだこと」読解課題プリント① A 自分の目指す「ケア」、目標とする看護・看護師像について考えていく。(看護について学習後、8 月末提出) 参考発展 プレイディみかこ「アナークックエンパシーのすすめ」他/「傾聴について」				
2~4	<さまざまな死を前にした思いを読み取り、自分の生と死について考えていく> <子どもの死>テキスト1 評論 土門拳「死ぬことと生きること」読解課題プリント②愛児の死を機に深まった著者の死生観 <自身の死>山本文緒「無人島のふたり 120 日以上生きなくちゃ日記」抄 課題プリント③もし自分が余命宣告されたら… <患者の死>田村恵子「がん看護の現場で」課題プリント④ 看護師が自分の死生観を持つ必要性 それぞれの著者の死生観を読み取り、考え、B 今の自分の死生観(死をどう考えるか、どう生きたいか)を書き提出。 C 愛する人を亡くした詩歌(別紙プリント)を読み、それぞれの思いを読み取り、考え、鑑賞文を書く。 D 死・死別をテーマにした優れた絵本(別紙紹介)を読み味わい、別れの悲しみにどう寄り添うかについても考え、感想意見を書き(提出)、話しあう。				
5~7	<不条理な死—災害・戦争・パンデミック等の極限状況の中、一人の人間として将来の医療従事者として自分はどうか生きたいか考える>→E「命・平和を守るためには~」今の自分の死生観を書いて提出 テキスト4 古典 鴨長明「方丈記」「養和の飢饉」(資料配布)読解課題プリント⑤参考発展 震災関連の作品(別紙紹介) テキスト2 近代詩 峠三吉「仮繙帯所にて」「原爆詩集」読解課題プリント⑥作者の思いを読み取り、受け継いでいく。 参考発展 井上ひさし「父と暮せば」原民喜「夏の花」他原爆文学作品(別紙)テキスト3「文章を書く」p.75~取材も参考に 土門拳の写真(若き看護婦の肖像、出征する日赤看護婦、ヒロシマ)、梯久美子「百年の手紙」従軍日赤看護婦の手紙、反戦詩歌、スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ「戦争は女の顔をしていない」、エマ・ドナヒュー「星のせいにして」他(別紙紹介)を読み、戦争と平和・命について考えよう。さらに戦争と看護師の歴史・ジェンダーについても関心を持ち、読んで考えて行こう。				
8	まとめ A 自分の理想とする看護・看護師像の発表、今後の課題について話し合う。				
	テキスト3「文章を書く」5 小説 志賀直哉「城の崎にて」は自分で読んで学習。高校で配布の国語便覧・資料も活用しよう。				
	テキスト・関連本・紹介本(別紙)をできるだけ多く読み、自分なりの感想意見を書こう。自分で選んで読んだ本も。用紙・字数自由。題名・作者名・読んだ日付け明記。4月6日(月)に提出。講義開始後も随時受付。成績として評価する。				

	時事問題・医療問題に関心を持ち、ニュース・新聞記事等をチェックし、考えよう。図書館を積極的に利用しよう。
評価 方法	<p>1 提出物評価 読解課題プリント①～⑥(予習とまとめ)、感想文(自分で選んで読んだ作品も含む)・意見文 A～E 等</p> <p>2 授業態度(出欠・発表態度等)を総合評価する。</p> <p>必要に応じて漢字・語彙・表現表記の小テスト(またはそれに代わる課題プリント)を行い、成績に加える。</p>
教科 書	大河原忠蔵編著「看護師教養講座国語」 他資料プリントを配布